

えさし



力強くバーベルを挙げる生徒たち

重量挙げ競技の出前教室「ウエイトリフティング競技・チャレンジスクール」は2月25日、江刺第一中学校（高橋昭三校長、生徒610人）で行われました。この催しは、平成28年に江刺区で開催される岩手国体に向けて、地元理解を深め、競技者を発掘しようと、県ウエイトリフティング協会などが企画したもの。同中学校の2年生218人が参加し、競技の説明を受けたり、実技を体験したりしました。実技に挑戦した繁泉健志さんは「とても重く感じましたが、自分でも挙げられることに驚いた。始めてみようと思った人もいると思う」と初めての体験に目を輝かせていました。

目指せ！未来の国体選手！
江刺一中生が重量挙げ体験

まちの話題



まえさわ

メイドイン奥州冬季五輪へ

市内企業が冬季五輪公式ウェアを生産

胆沢区小山のデサントアパレル(株)水沢工場（岩城均工場長）が生産したウォーマージャケットが、冬季五輪日本選手団の公式ウェアに採用されました。メダリストが表彰台で着用したこともあり、各方面で注目されています。同工場は、旧胆沢町の誘致企業第1号として昭和45年操業開始。スポーツウェアを中心に消防防火服や競馬騎手パンツなども生産しています。公式ウェアは、平成20年に同工場が開発した「水沢ダウン」を基に改良。生地を熱で圧着する特殊技術により表面に縫い目がないため、羽毛が飛び出ず、高い防水性が自慢の逸品です。谷本徹開発課長はダウン内側の「水沢」のロゴを示しながら、「評価を受ける機会が少ない工場がクローズアップされるのはうれしいこと」と喜びの笑顔。岩城工場長は「今後も技術を生かし頑張っていく」と意欲を語っていました。



水沢ダウン（中央左）と公式ウェア（中央右）を着用する開発者

いさわ

イベント多彩に豊作を願う

第21回全日本農はだてのつどい

米どころ胆沢を象徴する祭り「全日本農はだてのつどい」は2月13日、胆沢野球場特設会場で開かれました。大縄ないや庭田植再現、福俵引きなどが行われ、ことし1年の豊作と農作業の安全を祈願しました。

目玉行事の大臼福餅つきでは、都鳥田植踊保存会の会員が直径2.4m、高さ2mの日本一の大臼で、地元産のもち米30kgを威勢よくつき上げました。つき上がったもちきはきな粉をまぶし、来場者に振る舞われました。また、姉妹都市となった静岡県掛川市との調印お披露目式、同市特産のお茶や観光パンフレットの配布なども行われ、お互いの友好を深めました。



息のそろう大臼福餅つき

4年後無事に帰ってきてね

衣川さけ・ます増殖組合が稚魚放流

サケの稚魚を放流する園児たち



衣川区のあゆみ園（菅原昭子園長）園児72人が2月25日、サケの稚魚約2万匹を衣川に放流しました。この日放流した稚魚は、衣川さけ・ます増殖組合（菊地章組合長）が、昨年秋に捕獲した親サケ約300匹で人工授精を行い養殖したもの。10月から次々とかえった稚魚のうち、約7万5000匹が5gほどに成長しました。園児は、稚魚をバケツで丁寧に運び、川へ次々と放流した後、稚魚が泳ぎやすいように浅瀬の小石をよけるなど優しく見守っていました。組合事務局の佐々木金男さんは、「4年後サケが衣川へ戻ってきたら、今日を思い出して」と語りかけていました。

まえさわ

新しい市街地の完成を祝う

前沢北地区土地区画整理事業が完工

感謝状をわたす佐々木理事長左



前沢北地区土地区画整理組合（佐々木賢一理事長、組合員90人）が実施した同区画整理事業の完成記念式典は2月7日、約100人が出席してサンフレックスで行われました。佐々木理事長が「順調に進み、予定より1年早く完成できた」と喜びのことばを述べたほか、工事関係者らへの感謝状贈呈などで、新住宅地「ニューアスティ前沢」の完成を祝い合いました。同組合は、JR前沢駅北側から県道前沢東山線南側までの約14万9,000平方mの区域への新たな市街地づくりを目的に、平成17年3月1日に設立。整備を終え、21年12月25日付けで組合解散の認可を得ています。

寒空熱くする男衆の肉弾戦

黒石寺蘇民祭に多くの人出

東奥の奇祭として名高い黒石寺蘇民祭は2月20日の夜から翌朝にかけて行われました。川に入り身を清める「裸参り」や、火がついた組み木の上で氣勢をあげる「柴燈木登り」などが繰り広げられ、五穀豊穡や災厄消除を祈願しました。

祭りのクライマックスとなる蘇民袋争奪戦は、午前5時ごろにスタート。下帯姿の男衆115人が、五穀豊穡が約束されるといわれる蘇民袋を巡って、激しい肉弾戦を繰り広げました。ことしは土曜日開催ということもあり、県内外から多くの観客が来場。観客は、蘇民祭が持つあふれる熱気に圧倒されていました。



男衆がぶつかり合った蘇民袋争奪戦

みずさわ